

Topic 01 中間報告会～P2 院生より実践の経過報告～

8月28日、教育実践研究中間報告会が開催されました。P2の院生32名が3つの分科会に分かれ、終日にわたって研究経過を発表しました。

協力校での実践や関連論文・書籍からの学び、児童生徒の実態に応じた教育実践の工夫や現場での課題解決に向けた具体的な取り組みが紹介されました。

発表では工夫を凝らしたスライドを用いて

研究成果を丁寧に伝える姿が見られ、質疑応答では研究の焦点化や今後の方向性について活発な議論が交わされました。P2の院生にとって自身の研究を客観視し、課題を明確化する貴重な機会となりました。また、P1の院生にとっても今後の研究の進め方を具体的にイメージすることができたようです。

2月の最終報告会に向けて、協力校でのさらなる実践とともに、研究のより一層の深化が期待されます。



Topic 02 デジタル・ウェルビーイングと子どもの端末活用



8月9日、熊本大学教職大学院主催の「デジタル・ウェルビーイングと子どもの端末活用」研修会をオンラインで開催しました。

静岡大学教育学部の塩田真吾准教授による「ライフキャリアという視点から子どもたちの端末との向き合い方について」の講演では、従来の「使いすぎ防止」から「余暇をデザインする」という新たな視点が提示されました。

続く塩田准教授と熊本市立出水南中学校の田中慎一朗校長との対談では、タイムマネジメント力の重要性や、子どもと「一緒に考え、一緒に楽しむ」姿勢の大切さが議論されました。

参加者からは「余暇の充実という視点が新鮮だった」「大人も楽しみながら子どもたちに関わることの重要性を実感した」など、デジタル時代の健やかな子育てに向けた新しい気づきを得る機会となりました。

Topic 03 授業紹介

生徒指導実践論から見えてきた 令和型生徒指導の進め方

生徒指導実践論で印象深い講話がありました。「24時間、他人とのコミュニケーションを『強制』される時代」において、様々な家庭環境の同年齢が生活する中、言葉の行き違いや衝突は避けられない。私たち教員は、傷つけた側を完全に否定せず、発達段階の『失敗』から何を学び、どのような人間関係を築きたいかを児童・生徒と一緒に考えることも生徒指導であると学びました。

中学生への生徒指導において、言葉選択の重要性を痛感しています。生徒の視線や言葉遣い、表情、忘れ物、友達関係、保護者など多面的・多角的な視点から判断し、「人を傷つけない」「自分が傷つかない」適切な生徒指導・支援につなげていきたいです。



PI 植嶋 祐二郎

Topic 04 研究紹介

児童と学校・地域をつなぐ授業の創造 —児童の地域観の変容を目指して—

学校と地域が連携・協働することが求められて久しいですが、求められる以前から連携・協働が独自に進められている地域もあると思います。私たちはどのように地域と連携・協働し、授業を実践していくべきなのでしょう。子どもたちの地域観の変容を目指し、同時に地域の方々の地域観を再認識・再評価させるために、児童と学校・地域をつなぐ授業を研究しています。そのために、地域教材における教材研究のあり方を変える必要があると考えます。地域の教材を、地域の中に存在する教材と捉え直し、教師自身が地域理解を深めることが第一歩だと考え研究を進めています。



P2 志賀 哲朗